

人を守る砦である、「福祉」を担うものとしての使命。



あらためて基本に立ち戻る。

多機能事業所L.C.C.ういんぐ管理者 福庭 紳介

L.C.C.ういんぐは日中活動系の事業を軸に展開しています。今年度は福祉サービス費の単価切り下げもあり、厳しい運営状況に直面します。そのような中でお客様の満足感を高め、安心と安全を感じていただき、それが毎日のご利用につながる～あらためて基本に立ち戻り、関係する皆様と笑顔で気持ちよく接していきたいと心を新たにしています。

2015年度が始まりました。事業計画策定にあたって、お客様の顔を思い浮かべ、経営資源(人・物・金・情報・時間)について考え、職場スタッフからの意見を参考にし、何度も書き直しをしてきました。結局のところ完成を見ぬまに「劣進」となってしまうことが、今年度目指す理想的な姿として、当事業所の「ファン」を増やすことがあげられず、お客様がファンに変わるという体験を一つひとつ増やしていきたいと思ひます。そのために、

- ① 当たり前が当たり前でできる
- ② 働くスタッフの意欲や気持ちも大切ですが、まず行動としてプロセスや結果で評価しよう
- ③ 仕事でのどんなアイデアも大切に、それを育て上げ仕組み化する風土をつくる

それら業務改善が、関わる人へのサービスの質の向上につながるということをお願いしていきたいと考えます。

スタッフの異動や配置転換もありました。社会や地域、制度や業務の関係で他にも変わるところが今年度もあると思ひますが、関わる人のために「良い方向に」変わることを頭に置き、今年度は事業運営をしていきます。

役割。

居宅介護事業所ケアセンター大空管理者 原 繁雄

平成27年2月12日厚労省社会保障審議会は、社会福祉事業や公益法人の在り方の変容を踏まえ、他の経営主体とのイコールフットイング等の観点から社会福祉法人制度改革案を示しました。その影響もあり、国から示された平成27年度障害福祉サービスの報酬改定、市町村からの移動支援事業に関する報酬改定は、共にマイナスとなりました。ケアセンター大空は、こうした状況下で平成27年度を迎えることとなりました。

居宅介護等事業所は地域福祉の担い手として重要な役割を果たします。住み慣れた地域で生活する障がい者(児)が、安心して、心豊かに暮らせるために、障がいがあってもその人らしく生きていくために、社会参加の機会確保のために、一人ひとりの願ひの実現のために、ご家族の負担軽減のために。

今年度、ケアセンター大空はその役割を再認識し、支援技術の更なる向上に努め、いつまでも利用して頂ける事業所を目指します。ご本人ご家族との信頼関係を深め、「暮らしやすさ」を共に考えていきたいと思ひます。

きめの細かい相談事業所を目指して。

相談事業所ひまわり管理者 竹内 淳子

日頃は大変お世話になり有難うございます。特にこの3年間は利用者様のサービス計画作成をするにあたり、法人内、法人外を合わせて当初予想を大幅に超える218名(平成27年4月17日現在)の方に、相談事業所21か所の中から「ひまわり」を選んで頂きました。

訪問や面談、電話等では、ご本人、ご家族様、サービス事業所等の皆様と沢山のご協力を頂き平成26年度中に全ての利用者様の計画作成を終えることが出来ました。深く感謝を申し上げます。

この4月からは相談員2名(竹内・小原)と、補助兼事務担当系原の3名体制で「きめの細かい相談事業所」を目指し、対象者様との関わりを一層深めていきたいと考えています。なお、個人情報につきましては職員一同取り扱いに注意し、慎重に管理をさせていただきます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



照れてるのかな?



皆でピース?



いい天気良かったね!

利用者様に必要とされている理由を強化。

持田寮施設長 江指 裕嗣

持田寮は、開設から24回目の春を迎えました。利用者のみなさんもそれだけ年を重ねられ、最近では重度・高齢化対策が最優先課題となっています。今までも取り組みを続けてきたわけではありますが、リハビリや生きがい活動を更にもう一歩進める取り組みをしていきたいと思ひます。

また、近年は短期入所事業の利用ニーズが大変高まっています。障がい者支援施設としては、地域生活のセーフティネット機能を高めることも一つの責務と考えます。

こうしたことを踏まえ、今年度の経営課題として「利用者が必要とされている理由を強化する」ということを掲げています。少しでもみなさんのご期待に応えられるような支援、サービスメニュー作りを進めていきたいと思ひますので、お力添えを頂ければ幸いです。



作業場が広くなりましたよ

利用者様の満足度向上を目指して。

ワークセンターフレンド 松浦 和志

4月は年度の始め、新規利用者様が4名利用開始され、フレンドは活気に満ちた日々を送っています。クリーニング業務の作業効率のところで、課題となっていた製品を確保する場所、プレス作業とタオル仕上げ場の分離を行う為、昨年9月より増築工事に入り27年1月末に工事が終了し、新しい作業環境の中でクリーニング業務を開始しました。

製品庫にある製品を眺めると、これだけの製品が以前工場内にあったかと思うとびっくりします。廊下にラックに積んだ製品が無くなりました。以前はラックを避けながら移動していましたが今では普通に移動出来ます。作業場も分離し、作業スペースが広くなりました。クリーニング業務を始めて10年になろうとしています。課題はまだ残っており、新しい作業を取り組む計画と並行に今年度も利用者様の満足度向上、工賃向上に向け進んでいきたいと思ひます。



さばき

浴衣は丁寧に1枚ずつ

シーツのローラー流し

これからのグループホームの課題。

共同生活事業管理者 遠所 三津江

制度の改正によりH26年4月よりグループホームに一元化されました。当事業所では、「介護サービス包括型」として指定を受け、従前の事業内容をそのまま引き継いだ形となっております。

今年度は、養護学校の卒業生の方、2名を迎え、総利用者数48名で出発します。若い方が新生活に夢をふくらませ、独り立ちして仕事に真剣に向かっている姿は、本当に初々しく、はつらつとされており、他の利用者の方や職員に良い刺激をいただいています。今年度、入居者の平均年齢は凡そ50歳です。中でも、65歳以上の方は10名、元氣な80歳代も3名いらっしゃいます。

昨今、全国的に共通した課題として挙がっているのが障がい者の方の高齢、重度化への対応です。当然のことながら、若い方への支援と高齢・重度の方への二分した支援を余儀なく求められており、ハード・ソフト面、医療面、職員配置においてもこの混在した支援では福祉の基本、「安全・安心」は到底維持できません。ご高齢になられた方の「終の棲家」としての地域生活が現実には果たせない今、苦渋の選択として、介護保険移行への準備を進めていかざるを得ません。障がい者福祉施策の中でも65歳以上の障がい者の方のサービスは「介護保険優先」を謳っています。実際には身体機能の低下や認知症状の深刻な状態になって申し込みをしても老人施設は、常に満床状態であり、知的・精神障がいの方へのノウハウなどの課題もあり、スムーズな移行は困難です。中には必ずしも介護保険サービスでの解決は難しい方もいらっしゃると思ひますが、可能な方については早目に介護認定を受けていただき、ケアマネさんとのつながりを持ちたいと思ひます。

これからも地域生活についての課題はたくさんありますが、今後とも変わらぬご理解、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

障がい者虐待防止・権利擁護研修。

持田寮 松原 さやか

今回の研修では虐待防止法の説明や虐待事件が起こった背景についての話がありました。利用者様の事をきちんと理解しお互いが良好な関係を築くこと、職員同士も協力する体制づくりやストレスマネジメントを行い気持ちよく働ける環境をつくる事で千鳥福祉会が誰にとっても安心できる場所であればよいと感じました。

また、リスクマネジメントにも共通するところもあり合同での会議開催や、研修で学んだことを確実に他の職員へ伝え今後も学び続けていく姿勢が大切だと感じました。ありがとうございました。



そうとながしてえ

日替わり集団レクチームカモアップ!

走ったりバドミントンをしたり...
そしてみんなでバチリ!

待ちに待ったランチタイム♪

優しくね!

ぱすてる・ぱすてるぴいすの展望。

ぱすてる・ぱすてるぴいす管理者 江指 裕嗣

当法人で放課後等デイサービス事業を開始して3年が経過しました。その間、たくさんの変化を加えながら走ってきました。それは、何よりもみなさんの利用ニーズに応えること、そして、みなさんに楽しく、充実した時間を過ごしてもらい、家路に着いてもらえるように考えた結果でした。

移転、増設を経て、ぱすてる・ぱすてるぴいす、それぞれ10名ずつの一日定員で賑やかな日々を送っています。大きなサービスパッケージづくりは一先ず完了と感じています。

今年度は、利用される児童・生徒さん方への個別対応や個別スペース確保のための構造化などを深めていきたいと考えています。短い時間の利用、人によっては週1回の利用という方もいらっしゃいますが、きめ細かいサービスが提供できるように努力していきたいと思ひます。